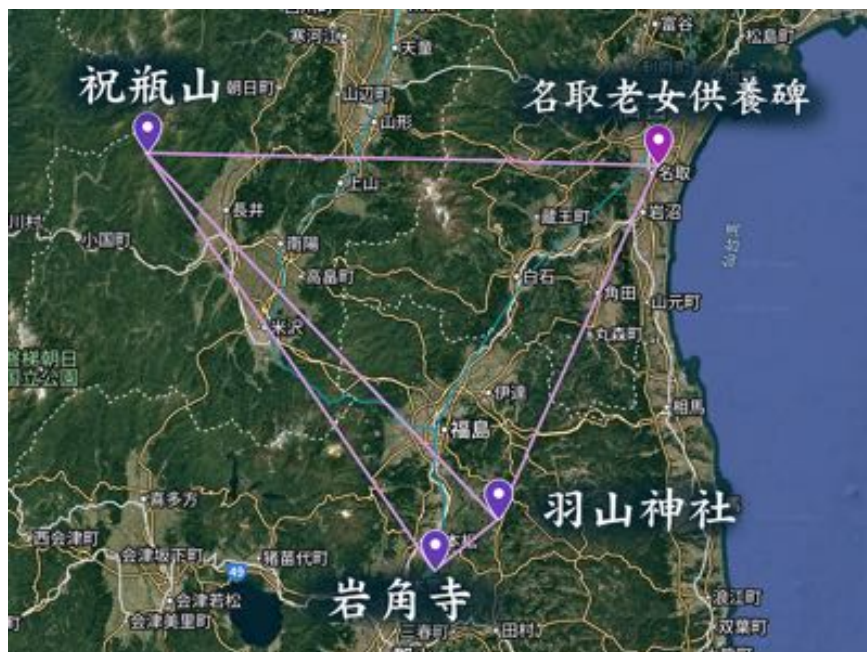


名取老女の墓（供養碑）

●名取老女の墓があることがわかったので祭祀線を探してみた。まずは真東に位置する祝瓶山から。

●祝瓶山



■名取老女の墓 ←←← 89.199km →→→ 祝瓶山 →→→ 89.199km →→→ 羽山神社
→→→ 89.199km →→→ 岩角寺



■名取老女の墓（供養碑）

東北の熊野信仰の中心的存在である名取熊野三社（新宮、本宮、那智）の勧請について、昔から「名取老女」の物語が伝えられています。毎年紀州熊野に参詣していた巫女が、年老いて参詣できなくなったため、付近に小さな熊野三社を建ててお参りをしていました。その後、旅の山伏に紀州熊野権現のお告げがあり、枕元にあった椰の葉に「道遠し年もいつしか老いにけり 思いおこせよ我も忘れじ」という



和歌が記され、これを山伏が老女に伝えたところ、感激して涙を流したといわれています。そんな老女の信仰深さからその徳が広がり、高館熊野堂と高館吉田に熊野三社が勧請されたと伝えられています。このような老女の徳を偲んで、文化8年（1811）に地元の人々によって名取老女の墓が建立されました。 名取市下余田字飯塚 228-2

■祝瓶山（いわいがめやま）

祝瓶山は朝日山地の主峰・大朝日岳から南南西に伸びる山稜の上に位置している。標高は 1500m にも満たないが、岩陵が発達する極めて峻険な山容を示す。このことから、俗に東北のマッターホルンとも呼ばれる。祝瓶山の北稜部が磐梯朝日国立公園の出羽三山・朝日地域に含まれている。なお、祝瓶山は、地質学的には朝日山地のほかの山と同様に花崗岩を中心とした深成岩からなる山である。山頂には、宗教色の薄い朝日連峰の中で珍しく小さな石祠と鉄鳥居がある。



サイト やまがた山さんより拝借

■羽山神社

羽山神社の創建は、平安時代の天喜3年（1055年）と伝えられています。源頼義・義家父子が前九年の役に勝利した際、戦勝を祈願した木幡山に白旗を奉納したことが起源とされています。その後、白旗は羽山神社に納められ、毎年12月の第1日曜日に例祭が行われるようになりました。

幡行列は、氏子たちが色とりどりの五反幡や三反幡を掲げて、羽山神社から隠津島神社まで練り歩く行列です。幡は、源頼義・義家父子が戦勝を祈願した際に奉納した白旗に由来しています。幡行列は、960年続く伝統の祭りであり、毎年多くの人で賑わいます。

胎内くぐりとは、羽山神社の奥にある胎内岩をくぐる神事です。胎内岩は、源頼義・義家父子が戦勝を祈願した際に籠ったとされる岩です。胎内くぐりは、その岩をくぐることで、厄を払い、無病息災を祈願する神事です。祭神/不明 福島県二本松市木幡

■岩角山岩角寺

岩角山は天台宗総本山比叡山延暦寺の直末寺で、正式には和田山常光院岩角寺がなかじと言います。しかし古くから「岩角山」という俗称で親しまれ、その名で知られて来ました。開山は人皇55代文徳天皇の御代、仁寿元年（西暦851年）。天台宗第3祖慈覚大師が開基された霊場です。山中に点在する露出した岩石には、それぞれに即した名が付けられ、その岩肌には江戸時代に西国より移し線刻された西国霊場33カ所の観世音や菩薩、天王、天神などの808軀が刻まれています。

福島県本宮市和田東屋口84

●いきなり大物な寺社とつながり驚いた。リスペクトしている歴史サイト「仙台まほろばの道」さんによると旭神子は出羽三山の葉山（羽山）・羽黒で修業をつんだという。それならば、元出羽三山の一つだった山形県寒河江市葉山の白磐神社ともつながっているはず。すると…

●葉山 白磐神社奥の院



■ 白磐神社奥の院 ←←← 72.004km →→→ 名取老女の墓 →→→ 72.004km →→→ 御賀八幡神社
 →→→ 72.004km →→→ 猿田彦神社
 →→→ 72.004km →→→ 神明神社



■ 白磐神社奥の院

白磐神社（はくばんじんじゃ）。通称：葉山神社。

当神社の創建時期は不明。「葉山」は本来「端山」で、「奥山」に対して里に近い山という意味なので、全国各地に同名の山があり、区別するために「村山葉山」とも通称する。地域や時期によっても違うが、「出羽三山」は江戸時代初期まで「羽黒山」・「月山」・「葉山」を指し、「湯殿山」は「総奥之院」の扱いだったともいう。そういう事情で、古くから「葉山修験」という一派が活動しており、そ

の中心を成していたのが「医王山 金剛日寺 大円院（葉山大円院）」だったという。その神仏混淆の縁起によれば、天地開闢の折、国常立尊が「葉山」山頂に五色の華、即ち妙法蓮華經の5文字が開くのを見て、天下って「葉山地主神」となった。その本地は薬師如来である。大宝2年（702年）、役小角（役行者）の命により、弟子の行玄が開山したとされる。そして、「日本三代実録」貞観12年（870年）の記事に、出羽国の「白磐神」と「須波神」に従五位下の神階を授与したとあり、そのうちの「白磐神」が当神社のこととされている（国史現在社）。その確実な証拠はないが、現在も「葉山」の南側に広く「白岩」という地名が残っており、通説といってよい。中世以降も、当地の領主に篤く庇護されたが、16世紀中頃、ともに「葉山」を「奥之院」としていた大寺「瑞宝山 慈恩寺」が離反したため「葉山修験」は次第に衰退した。それでも「大円院」は新庄藩の祈祷所などとして重用され、最盛期には宿坊19坊、末寺51カ寺があったが、江戸時代中期には宿坊が6坊まで減少、明治時代に入ると修験道が禁止されたこともあって、ますます衰退した。更に、第二次大戦後、寒河江市白岩字畑にあった本堂付近がGHQアメリカ陸軍の演習場の着弾地とされたため、昭和30年に本堂を解体・縮小し現在地（村山市岩野）に移転したという。この間、「白磐神社」の変遷はよくわからないが、「葉山薬師権現」などと呼ばれ、「千座川」の水源の神として、主に「作神」（農業神）として信仰されていたようであり、新庄藩主・戸沢氏により何回か「奥之院」（社殿）建替えがなされた記録がある（文久元年：1861年など）、現在では「葉山」山頂付近に社殿があって、「葉山神社」とも通称されている。現在の祭神は大己貴命と国常立命。

山形県寒河江市大字田代字葉山1192-2。 ※サイト「神が宿るところ」より抜粋

■御賀八幡神社

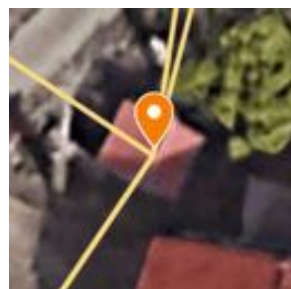
源頼義父子出陣の際、清原成隆、中原清房、藤原正弘等に命じて、八幡の神輿をかつがせ、賊の退散を祈願させた。軍を動かす毎に神輿を移し、安置した場所に勧請して社を建てたが、この社もそのうちの一社で、安部貞任誅伐の際、康平5年（西暦1062年）の12月凱旋して此の地に軍をとどめ、翌年正月斐（あや）城で諸将士の年賀を受けた。それから御賀八幡と称するようになったという。正月17日、此地を出発するに当り、清原成隆に命じて此社にかしずかせ、天台宗寺院本孝山普養教寺を建て別当とした。境内に、源義家が、弓矢とたてかけたと伝えられる弓立、矢立の杉があったが、現在、矢立の杉（二代目）が残っている。現宮司の清原昌雄は、成隆の子孫であるという。社蔵記録、封内風土記に「成隆第三子清民部少輔清原秀隆、崇徳帝の大治2年（西暦1127年）丁未3月神主となる。普養教寺は後円融帝の永和（西暦1375年～1378年）以来荒廃す。秀隆十世孫清伊賀守業隆第二子伊賀守俊隆なるもの、始めて修験道に入り、三僧祇権大僧都法印と号し、普養教寺遺跡跡に移り、別当となりて以来連綿今に至る。源義家弓矢を社頭に献じ、又天正年中邑主葛西家臣渋谷式部本社を再興して崇敬を致す。」となる。

祭神/応神天皇 宮城県栗原市若柳有賀字八幡 82

■猿田彦神社 詳細不明 宮城県栗原市栗駒猿飛来二本木

■神明神社 詳細不明 福島県二本松市吉倉神明

●見事につながった。しかも名取老女の墓は葉山に向けられているようだ。おそらくこの羽山と葉山につながる二つの祭祀線がここに墓を祀る基本ラインとなったのだと思われる。はたして朝日岳信仰とはつながるのだろうか…



●大朝日岳



■鹿嶋神社 ←←← 85.901km →→→ 大朝日岳 →→→ 85.901km →→→ 名取老女の墓



■大朝日岳（朝日連峰・朝日岳/役の小角・大日如来）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。五所神社縁起書によれば、天武天皇の治世、白鳳8年

（680）、朝日嶽、岩上嶽（祝瓶山）に役行者が参籠修行し開山したという。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると朝日嶽大富

権現は、大富権現・女躰権現・子守権現の三处であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初顕神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が



出逢った女神は女神権現(大日如来=木花咲耶姫命)。「朝日嶽信仰」は執権北条時頼(1246～56)によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。

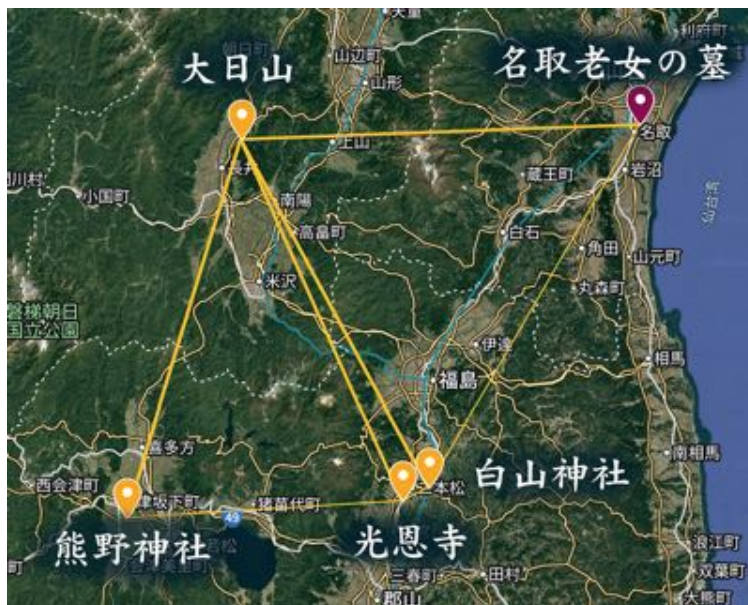
●三処とは、標高順に大朝日岳、中岳、西朝日岳ではないかと思われる。



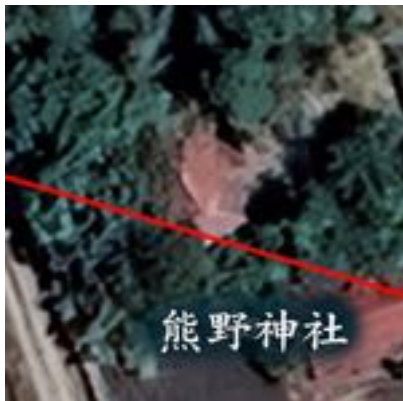
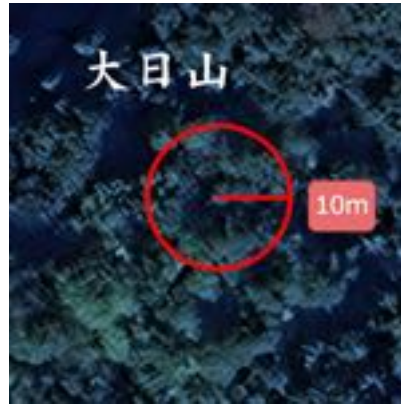
■鹿嶋神社 詳細不明 宮城県黒川郡大衡村大衡亀岡 1 4 - 4

●鹿嶋神社の社の建物が表示されず位置がアバウトなので、もしかしたらただの偶然の可能性もある。さらに朝日岳信仰の聖地とのつながりを調べてみた。

●大日山



■名取老女の墓 ←←← 71.859km →→→ 大日山 →→→ 71.859km →→→ 白山神社
→→→ 71.859km →→→ 光恩寺
→→→ 71.859km →→→ 熊野神社



■大日山

白鷹町黒藤と浅立地区の間にある標高 300m 独立山。山頂に大日如来を祀った大日堂がある。
山形県白鷹町



●役の小角が開山した朝日連峰の主峰大朝日岳と祭祀山だったとされる祝瓶山から同距離にある独立峰。現在は地図にも山名が載らない忘れられた山だが祭祀線を調べると朝日岳信仰の拠点の山だったことがわかった。現在の名取熊野三社とも祭祀線はつながっている。大朝日岳と同じ大日如来を祀っている。詳しくは別頁「朝日岳遥拝所 大日山」をご覧ください。

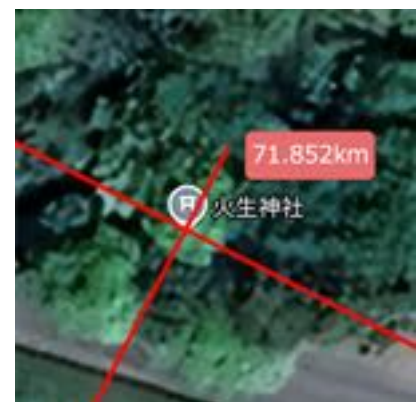
■白山神社 詳細不明 福島県二本松市三合内 3 9

■光恩寺 天台宗 聖観音 安達三十三観音 福島県二本松市杉田町 2-209

■熊野神社 詳細不明 福島県河沼郡会津坂下町五ノ併中島乙



■大日山 ←←← 71.859km →→→ 名取老女の墓 →→→ 71.859km →→→ 八雲神社
 龍雲院 ←←← 71.859km →→→ →→→ 71.859km →→→ 火生神社
 千眼寺 ←←← 71.859km →→→



■龍雲院

詳細不明 曹洞宗 県指定文化財の絹本着色釈迦十六善神図を所蔵。この画幅は3幅1対で、中央に釈迦如来、左右の幅に十六善神・文殊・普賢両菩薩、常啼菩薩と大迦葉、玄奘三蔵と深沙大將がそれぞれほぼ左右対称に描かれている。中央幅の釈迦は、衲衣部に截金で卍字つなぎ、蓮華唐草・亀甲・麻の葉つなぎなどの文様をあらわし、手印は右施無畏印、左与願印の坐像で、釈尊の裳裾が、蓮華座の左右の端より長く垂下するところに特色がある。彩色も朱・緑青・群青・金泥などを用い、着



衣・甲冑・武器・頭髮や髭まで丁寧、巧みに表現している。京の優れた絵仏師の手によるもので、鎌倉後期の作と推定されている。 南陽市竹原 655-1

●龍雲院は朝日岳信仰の二つの拠点「川口寺」「大谷金輪寺」と祭祀線は繋がっている。実際に訪ねたら空にたくさんの龍雲が現れて驚いた。

■千眼寺

千眼寺の創建は長禄元年（1457）、当時の平林城（新潟県村上市）の城主色部家によって開かれたのが始まりとされます。当初は真言宗の寺院でしたが天文元年（1532）に色部昌長によって曹洞宗に改宗開山し、天正年間（1573～1593年）、色部長真（色部勝長の次男）が色部家歴代の菩提寺としました。天正18年（1590）、豊臣秀吉による奥州仕置きに反発し出羽仙北地区で大規模な一揆が発生、鎮圧を命じられた上杉景勝は家臣である長真を派遣し一揆勢を掃討しました。

その後、長真は現地の大森城に留まり検地や治安維持に勤め、保呂羽山（標高：483m）の山頂に鎮座する保呂羽山波宇志別神社（秋田県横手市大森町）を篤く帰依するようになりました。伝承によると一揆勢に苦戦した長真が保呂羽山波宇志別神社の祭神の化身と思われる雉子に導かれ見事勝利に導いたとされ、窪田地区では雉子を食べないという風習が今尚残されていると云われています。天正19年（1591）に長真が帰国の際、保呂羽山波宇志別神社の分霊を勧請し保呂羽堂を造営すると千眼寺の守護神（鎮守社）としました。

その後、慶長3年（1598）に上杉景勝が会津黒川城120万石で移封になると、色部光長（長真の嫡男）は出羽金山城（南陽市）に移り、慶長6年（1601）に景勝が米沢城30万石で移封になると米沢窪田に配されました。千眼寺、保呂羽堂共に色部家に従い現在地に境内を構える事になっています。

米沢市窪田町1861

■火生神社 詳細不明 宮城県登米市中田町川欠42

■八雲神社

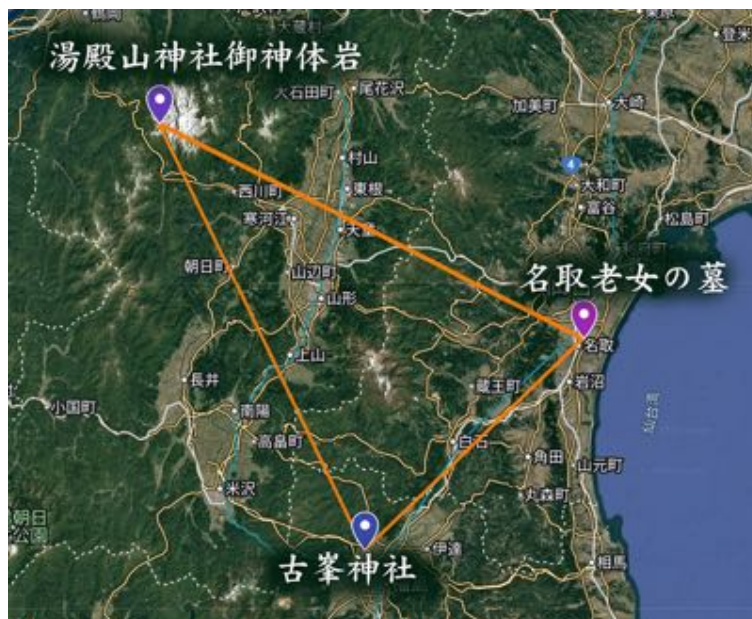
第七十三代堀河天皇の朝（1087－1107年）山城の国祇園天王より分霊し奉る。

祭神 / 素戔鳴尊 木花開耶姫命

一関市花泉町油島字猪岡西27番地

●熊野三社を勧請したのが保安4年（1123年）という伝承があるので、大日山と最初に繋げたのはこの八雲神社だと思われる。

●湯殿山神社



■古峯神社 ←← 89.326km →→ 湯殿山神社御神体岩 →→ 89.326km →→ 名取老女の墓



■湯殿山神社

湯殿山は大同二年（807）四月八日弘法大師の開山で、湯殿山大権現と称し奉り、両部大日如来の鎮まる霊地です。両部大日如来は万物の父母と仰がれ、又往時は伊勢神宮の奥の院ともいわれ日本全国より尊ばれてきました。天然自然のお湯にひたる御宝前は登拝者の心念をひきつけ、“言わずの山語らずの山”と言われ、湯殿山のご宝前のことは人に話してはならない、語らば聞くな、聞かば語るなという厳しい戒めがあるほどベールに包まれた秘境。現在も写真撮影禁止、参拝は土足厳禁で、俗世と隔離された仏神の領域である思いを深くします。祭神/大山祇命、大己貴命、少彦名命 山形県鶴岡市田麦俣六

●出羽三山について

月山・湯殿山・羽黒山を三権現あるいは三所権現ともいい、三山というようになるのは元亀・天正（1570-92）の頃からである。それ以前は羽黒山・月山・葉山を三山として、湯殿山は「総奥之院」と

していた。出羽三山神社の社伝では崇峻天皇の皇子、蜂子皇子（能除太子）が開山したと伝えられています。崇峻天皇が蘇我氏に弑逆された時、蜂子皇子は推古元（593）難を逃れて出羽国に入りました。その時に、3本足の霊鳥の導きによって羽黒山に登り、苦行の末に羽黒権現の示現を拝し、さらに月山、湯殿山を開いて3山の神を祀ったことに始まったと伝えられています。月山神社は『延喜式神名帳』に記載があり、名神大社とされている。出羽神社も、『神名帳』に記載のある「伊氏波神社」（いはじんじゃ）のことであるとされ、古来より修験道（羽黒派修験など）の道場として崇敬されました。

●現在のグーグルマップではご神体岩が暗くて確認できないので以前の写真と比べてみた。左上の白く見える部分から照らし合わせてみた。おそらくマーカの位置で間違いないと思われる。

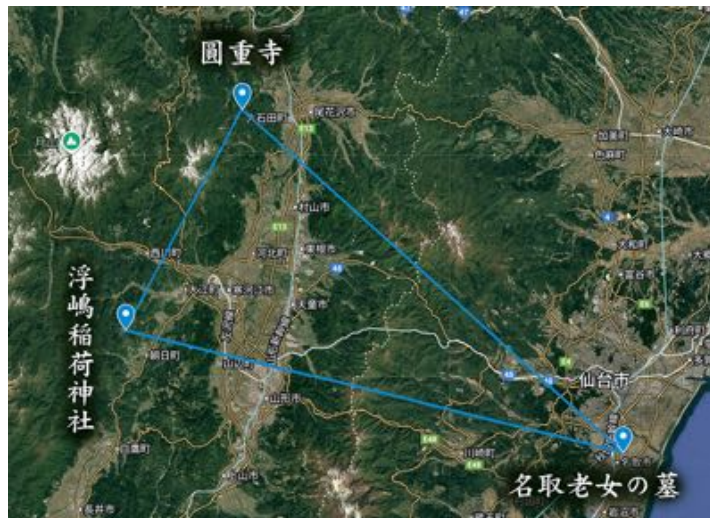


■古峯神社 詳細不明 福島県福島市飯坂町平野三角山12-2 愛宕神社

●湯殿山神社は大同二年（807）空海が大日如来を祀り開山した。名取老女も大日如来になったという。名取老女の墓は葉山白磐神社に向いていると書いたが、写真をよく見ると湯殿山神社に正確に向いていることがわかる。

ちなみにサイト仙台まほろばの道さんによると「大同二年」は蝦夷征伐をあらわす元号らしい。空海は蝦夷征伐のために湯殿山を開いたのだろうか…

●浮嶋稲荷神社



■浮嶋稲荷神社 ←←← 70.859km →→→ 名取老女の墓 →→→ 70.859km →→→ 圓重寺



■浮嶋稲荷神社

大沼は、湖畔にある浮嶋稲荷神社(祭神/宇迦之御魂神)の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』(1505 年)によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年(681)役の小角が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川(朝日町大谷)のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮嶋稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当(大行院)とし朝日岳修験が行われた。739 年には行基が訪れ浮島 66 個に国の名前を付けた。建久 4 年(1193)には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志が



あるかのように動き回り驚く。出雲族東王家の**富家**の人々は出雲から大和の葛城山東側に移り住んだとされる。役の小角の生誕地は奈良県御所市茅原。まさに葛木山の東に位置する。大沼を「大富沼」、大朝日岳の神を「大富権現（弁財天）」と名付けたのも役の小角だろう。役の小角が天孫族秦氏の稲荷神を祀ることはありえない。なにより伏見稲荷よりも古い歴史になってしまう。**730**年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるので、その時に秦族がやってきて主祭神を弁財天（瀬織津姫）から稲荷神に変えたのだと思われる。徐福が連れてきた海童たち秦族は蓬莱島信仰を持つ。自由に動き回る浮島は相当に魅力的だったはず。古い祭祀線はほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島（弁天島）」（写真）が起点となっている。

■圓重寺

圓重寺は谷地城主の白鳥十郎の家臣の青柳隼人の弟、平林玄馬が開いたお寺です。青柳隼人は白鳥十郎とともに山形城主の最上義光を見舞うため、山形城に同行しました。しかし、主君の白鳥十郎は最上義光に山形城内で討ち取られてしまいます。付き添った家臣もすべて殺されたといわれていますが、村山市にある照覚寺には別の伝承が伝わっています。白鳥十郎が山形で討ち取られた時、最上家の家臣、延沢能登守が白鳥家の重臣、青柳隼人と楨清光に馬を準備し、十郎の首を預けて山形城の裏門から逃したというものです。その後、二人は天童を通り、最上川を下り、村山市大久保から山深い次年子地区に逃れた、といわれています。主君の首を、最上軍の追手から守るため、山奥の次年子に逃れたのではないのでしょうか。圓重寺の裏山に、縦**2**間（約**3.6m**）横**4**間（約**7.2m**）高**3**尺（約**0.9m**）の塚があり、ここに白鳥十郎長久の首が埋葬されている、と伝えられています。地元の方々はこの塚を「旦那首（だんなぐし）」とよんでいるそうです 山形県北村山郡大石田町次年子95

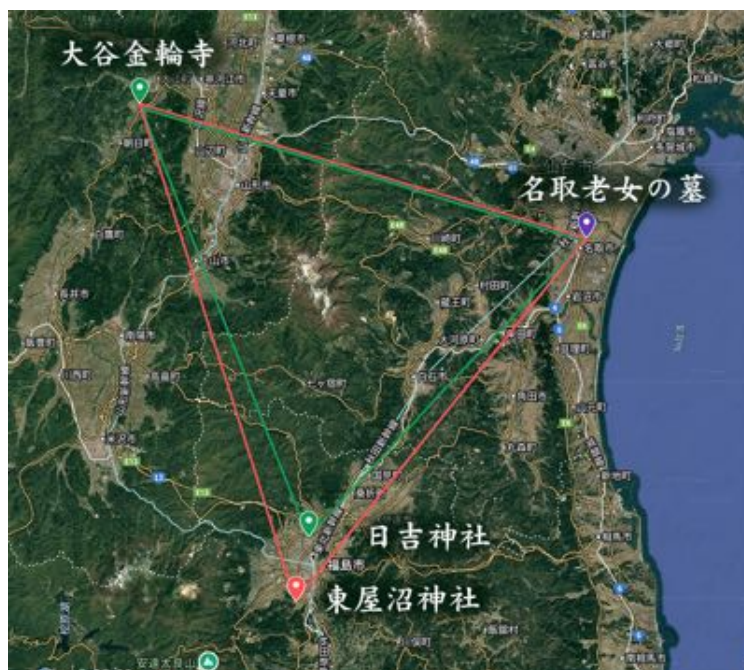
※サイト 白鳥氏が関連した寺社 紅玉ネットより抜粋

天正12年（1584年）6月7日、山形城々主最上義光に誘殺された白鳥城、谷地城々主白鳥十郎長久の老臣平林玄馬（別名信平）が主君の英霊を守護せんとし、発心し了円と改名。当寺を開基した事から始まる。白鳥十郎藤原長久の家老、青柳隼人は、主君が誘殺されて後、敵の目を逃れ葉山に身を隠し、烏川（銅山川支流）の寺屋敷にて暫しの間立てこもり、その後次年子に逃れこの地に主君の首級を埋葬したと言われている。隼人は世襲制をとる浄土真宗を開基することにより主君の末代までの繁栄を念願し成就するために京に趣き出家して名を定龍と改めこの地に三十年間とどまったと言われている。暫くして隼人は郷里の白鳥に帰り照覚寺を建立している。明治初期まで子孫が来寺しては、菩薩を託した当寺の末代を見守ったと言われている。

※サイト 仙台まほろばの道「【大石田町】次年子に伝わる白鳥十郎長久ゆかりの寺」より抜粋

●大沼の出島（弁天島）とつながらなかったのも、もしかしたらと浮嶋稲荷神社で探したらつながった。圓重寺の本堂は名取老女の墓を向けて建てられている。サイト仙台まほろばの道さんの同頁に「山形県の白鳥氏の系譜は、阿部氏と言われます」とあった。安倍家は出雲口伝では最後まで出雲祭祀を守った出雲王国皇子の大彦（長髓彦）の子孫とされる。出雲聖地だった大沼と名取老女の墓と繋がる位置に圓重寺を作った。ただ、浮嶋稲荷神社そのものは最上家の祈祷寺になっている…

●大谷金輪寺



■大谷金輪寺 ←← 70.859km →→ 名取老女の墓 →→ 70.859km →→ 東屋沼神社
 ■日吉神社 ←← 70.859km →→ 大谷金輪寺 →→ 70.859km →→ 名取老女の墓



■大谷 金輪寺 朝日町史「朝日岳信仰」より

川西町上小松にある真言宗大円寺に『朝日嶽縁起』は朝日岳信仰の内容が文章化されている。朝日嶽三所権現の縁起をのべ、三社が大富・女躰・子守の各権現で、本地仏はそれぞれ弁才天・大日如来・正観音であるとする。文末の古老の伝承はともかく、弘仁年間（810～824）に教旻という僧侶が、朝日山麓の大谷に来住して、朝日岳金輪寺を建立し、周辺には朝日三十三坊と呼ばれる宗教集落が成立したという記録は検討されなければならない。

この縁起を書いた行賢は、大円寺の世代記によると、中興開基から数えて十四代に当たり、永禄二年（1559）12月に没したと記されている。同寺にある他の記録によると、先祖は大谷の金輪寺住僧で、朝日岳三社権現の別当職を勤めていた。ところが永正年中（1504～21）に金輪寺が坊舎も含めて焼失し、再建居住が困難のため、天文年中（1532～55）行賢が上小松村の亀森天神別当の院跡へ移ったという。

朝日岳権現の祭礼は、古くは7・8月に行なっていたが、麓大谷の居住を離れたため例年の八月はできなくなり、10年に一度の登山を行い、三社権現の祭礼は八月一日から七日まで亀森山の社中で勤仕している旨を記している。

この文書には「朝日嶽三社大富・女躰・子守権現、従往古堂社無之霊地ニ候」と書いて、別当寺金輪寺はあるものの朝日岳三社は、社殿を持たなかったとしている。

大谷の地が問題になる。朝日町の大谷と考えたいが、多少の問題はあるだろう。現在の白鷹町・長井市・小国町・飯豊町・川西町に大谷の地名を探してみたが、小字にも見当たらないのである。永正年間に消失したと伝える金輪寺と朝日三十坊とされる朝日岳信仰のひとつが大谷であったと考え、もとの大谷集落跡も含めて今後の検討課題としたい。

-大円寺の観音経裏面の書き込み-

朝日先達 坊中 本坊 金輪寺 大圓寺 平圓寺

朝日岳金輪寺のほか、大円寺・平圓寺の2ヶ寺があり、それぞれが先達の坊を支配して一つの宗教集落を形づくっていたように思われる。

●金輪寺については別頁「朝日嶽信仰 大谷金輪寺・大圓寺・平圓寺はどこ？」をご覧ください。

■東屋沼神社 詳細不明 福島市山田東ノ内36-36

●詳細不明だが、同じ福島市の飯坂に同じ名前の式内社 東屋沼神社がある。ここの分霊社だろう。飯坂の東屋沼神社の由緒は「創建は不詳。平安時代中期の『延喜式神名帳』には「陸奥国信夫郡 東屋沼神社 名神大」と記載され、信夫郡に鎮座する延喜式内社五座（東屋沼神社、東屋国神社、白和瀬神社、黒沼神社、鹿島神社）の中で名神大社とされているほか、国の行事儀式「名神祭」が行われていた」とある。祭神/少名彦那神 大日貴命（大国主命） 素戔鳴命 日本武尊。少名彦は事代主のこと。出雲口伝では徐福に暗殺された出雲王国の主王が大国主命、副王が事代主。素戔鳴命は徐福。もともと出雲系の神社に天孫系の神を後付けしたのではないだろうか。

■日吉神社 詳細不明 福島市飯坂町平野西畑42

●祭神は出雲系クナト三神の一人 猿田彦命。



まとめ

●説明版をよく見ていなかったが、名取老女の墓の建立はかなり時代が下った 1811 年だと気づいて愕然とした。それまでお墓はなかったのだろうか。700 年後にお墓を建てたにとしては、祭祀線がきちんと繋がっている。名取老女をよく知り祭祀線を張れる人物が、名取老女と関わる聖地とつながるこの場所を選んだのだろうか。それともここにあったものを神として祭ったということなのだろうか。そして、なぜこの時代に建立したのか。文化元年の羽前羽後の大地震が名取老女の霊と関わりがあると考えたのだろうか…。

(2025.9.28 竜天太陽記)

